

6月21日、千葉県香取郡神崎町で行われた映画『降りてゆく生き方』公開5周年記念公演での話、この映画を通じて感じたことなどを紹介します。

#### 【映画『降りてゆく生き方』と私】

私は、数年前、『降りてゆく生き方』という映画を見ました。この映画は映画館での上映はしていません。多くの人に見てもらいたいと思う地域の仲間が主催する方法で上映されています。

今思えば、私はこの映画を見たことをきっかけに市政に携わることを決意したように思います。



#### 【発酵とまちづくり】

この映画のテーマの一つに「発酵」があります。そのまま放置しておくとも食物は腐敗してしましますが、発酵すれば腐ることなく熟成していきます。

日本酒は、米、米こうじ、水を原料として「発酵」の力によって造られています。酒蔵に棲みつく微生物たちが力を合わせて、ゆっくり、ゆっくりと発酵をし、美味しいお酒が造られます。人工的な酵母を加えて速く発酵を促せば、短時間で大量のお酒が生産でき、収益は上がるかもしれませんが、「百薬の長」と呼べるものではないでしょう。

これからのまちづくりも、日本酒の醸造工程と同じです。さまざまな人と人との交流によってじっくり、ゆっくり、お互い影響し合いながらまちを作り上げていくことが大切だと思います。時間をかけて自発的な交流であればあるほど、よい発酵をしていくものです。

今、長久手市では、さまざまな分野で市民参加によるまちづくりが進められています。そのことにより、徐々に長久手市が発酵し始めてきたと感じています。時代は、右肩上がりから、人口減少、少子化、超高齢社会へと進んでいます。そのような中、長久手市全体を市民のみなさん同士の交流により発酵させながら、自分たちの力で地域を変えていく魅力を感じてもらえたらと考えています。そして、市民のみなさんが知恵を出し合って、市役所や自治会等の役員にまかせていた地域の問題を市民の力で解決していく時代の到来をこの映画から感じていただきたいと思います。

～市長の話聞いて～

映画『降りてゆく生き方』のテーマは一つではありません。「自然」「生命」「まち」「食」「つながり」などテーマは多岐にわたっています。よって、鑑賞する人が置かれているそれぞれの立場、生き方により、心に響くところが異なり、また「降りてゆく」という意味が違ってきます。

戦後の高度経済成長を経て、私たちは物質的な豊かさと便利で自由な生活を獲得してきました。それと引き替えに、人間関係が希薄になり、大切な何かを失ってきたのではないのでしょうか。

時代は、変わっていきます。どんな時代の流れの中においても、既成概念を今一度問い直し、本質を見抜き、考え、行動することが大切であることを感じました。

失いかけていた人と人とのつながりを取り戻すことで何か素敵な「発酵」が生まれそうで、ワクワクします。積極的に発酵を促せるよう一歩踏み出してみようと思いました。



映画『降りてゆく生き方』(2009年)

監督：倉貫健二郎

撮影：赤川修也

脚本：森田貴英、倉貫健二郎

音楽：柴木明浩

出演：武田鉄矢、沢田雅美、渡辺裕之、  
荻谷俊介、大谷允保、権藤栄作、  
野中ともよ、石田えり

©降りてゆく生き方

※映画『降りてゆく生き方』については、実行委員の募集をし、上映会を行う予定です。

詳細は、後日、お知らせいたします。